

## 授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

学級活動の指導案作成および模擬授業の発表を学生に課している。

授業の最後に本日の講義の要点について、板書に赤の下線を引きながら再度説明する。本講義はソーシャルワーカーの資格審査に関わる内容を扱うため、出題に関わると思われる重要事項や概念については、暗記することが必要である。それを分かりやすく板書で一覧できるようにしている。

3年4年ともなると学生自身も授業で扱うピックスに対して自分なり意見を持っていることが多い。そのため、授業中に発言を求める、話し合いをさせるといったように意見表明の機会を設けている。ただ、大人数の授業でもあり受講生同士や教員から新鮮な視点をもらうという「アハ体験」につながりにくい点が課題である。

15回の授業のうち、後半の授業は独自の方法で学生に模擬授業を行わせ、その後、学生同士で意見交換をさせている点。

・授業において、グループワークや各自が読んだ本を紹介するプレゼンテーション及びプレゼンテーションに対する感想カードを活用し、学生が主体的に授業に参加し、授業内容の理解を深めることができるようにした。  
・現職教諭の話聴く時間を設定し、養護教諭の職務内容や養護教諭の役割について、具体的に理解を深めることができるようにした。なお、事前に質問事項を聴取することで、より関心を高めるようにした。

本授業は幼稚園に行き、幼児と遊び、保育の楽しさを体感することを目的としている。また、園長先生への質問時間を確保しているが、今後の実習において、園長先生に直接疑問や質問をすることが時間的に難しくなることも想定されるため、貴重な体験であることを学生に伝えた上で質問に臨ませている。

受講人数の多いクラスもあるが、できるだけ個々の学生が個人単位で発表とそのコメントを受けられるようにしている。

映画 音楽(ポップス) マンガ などサブカルの導入  
レポートを輪読させ、レポートの書き方を学ぶ。など。

課題について考えを記述し、その後ペアやグループで話し合いを行い、その後全体で発表する形態をとり、学生が主体的に考えることができるようにした。  
提示物を工夫し、イメージがもてるようにした。  
資料の中で、大切なところは、学生がまず予想して書き込むことができるようにした。まとめとなるところを15問のクイズ的に示し解答を行った。  
学生の教育実習経験を想起させながら、具体的な問題場面を考えさせた。  
毎回ワークシートを用意し、ワークシートの最後には、意見や感想等を書かせ、朱を入れて次回返却した。さらに、次回の講義の内容に生かした。

授業前半の講義(教授)については、プレゼンを利用するとともに、その画面を印刷して配付し、重要事項の書き込みや復習ができるようにした。また、授業の後半には毎回ALを設定し、討論や演習を通して学びを深めるようにした。

・グループによる事例検討を実施し、グループでの討論を充実させている。  
・できるだけ学校現場で起きた問題事例を紹介し、解決策を討論させ、それをふまえて担当者の経験に基づいて対応の仕方を説く。  
・絵本の読み聞かせを学生たちにさせる活動をさせている。

・最も配慮している点は、受講生の「主体的な学び」についてです。この点において、グループディスカッションやグループワークをできる限りの時間を割いて取り入れるよう、毎回の授業時間を組み立てています。

・グループディスカッションでの課題は、はじめて教壇に立って実際に遭遇するような現実的な問題や課題を中心に提示しています。そうしたディスカッションテーマを互いに話し合うことによって、多面的な意見を自らの考えの中に取り込みつつ、実践的なスキルを身につけてもらいました。

・あわせて、「教科外活動の研究」では期末課題であるオリジナルの「学級活動指導案」作成にあたり、グループワークによる指導案の「相互批評」を実施しながら、より豊かな「主体的な学び」に結びつけてもらいました。

市販されているものではなく、保育現場の今を共有できる保育映像の視聴や、事例や学生自身の実践をもとに保育環境や援助の選択肢を考えたり、グループディスカッションをしたりすることで、理論と実践の往復に努めている。

#### 毎回行っていること

・レジュメ作成；授業の内容とタイムテーブルの提示、連絡事項等を記載

・感想文とそのフィードバック

・グループワーク；6人を基本としたグループを構成。感想文の読み合わせ、グループ討議等を行う。

ポスターセッション；自治体等の社会教育実践を調査し、ポスターにまとめ、授業時間内で行う。

ワールドカフェ；社会教育事業計画を作成し、それをワールドカフェ形式で発表交流し意見交換を行う。

2年次には保育所実習で子どもの前で絵本・紙芝居を読むなどの実習をすることから、この時期(1年後期)には、「保育者」になったつもりでみんなの前で話したり、絵本・紙芝居を読んだりする体験を、できるだけ多く取り入れるように工夫している。

また、これらの活動を通して、他の学生のどのような点が具体的に良いのか、何を工夫すると技能が向上するのか等について全体で討論し、全体を通して各学生の技能が向上するようにしている。

15回の授業のなかで、最低限必要な知識の伝達を行いつつ、教育現場で解決的アプローチが求められている課題について、模擬的な事例検討を中心に実践的なテーマを取り上げている。また、その際には、学生間での対話が十分にできる時間を設けるようにしている。

パワーポイントの資料のほか、映像資料、文献資料などを組み合わせ授業資料を必要に応じて準備をしている。

地域福祉論については、地域での実践者、地域で生活する当事者に授業でのゲストスピーカーをお願いし、実践現場の課題を学生と共有した

グループディスカッションを行う際、適宜席替えをしている。

・座学講義中心の授業ではなく、グループワークや学生同士での対話の場を多く設定し、ふり返りにより、どんな学びを得たかを重視している。

・正解を教える授業ではなく、学生がどう考え、どのような問いを生み出すのかを重視している。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、関連する生理学的な仕組みについても適宜説明した。

また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

養護教育講座の6人の専任教員がそれぞれ工夫して行っている。

現職のゲストティーチャーにも講義を依頼している。

教養科目に近いし、100人を超える授業なので、時事ネタや芸能ネタなどを心理学の観点から解説し、興味を持たせるようにしている。